



Sustainable Society Study (SSS) 1st Year High School



2021年4月10日 SSS（高校1年生）－授業－

私たちの World Wide Learning 構想

Introduction

新高校1年生をホールに迎え、第一回目のSSS(Sustainable Society Study)講座を開講しました。本校では、2015年より5年間にわたり文部科学省のSGH(Super Global High School)指定校としてGUS(Global Understanding Skills)講座「持続可能な社会を担うグローバル人材育成プログラム～環境先進国に学び世界に提言～」で様々な学びを展開してきました。そして昨年度からはWWL(World Wide Learning) コンソーシアム構築支援事業の拠点校となり、プログラムのテーマをこれまでにSGHで取り組んできた「環境問題」から発展させ、環境に配慮した理想の街の探求をテーマに「街づくり」としました。まずこの1年で皆さんにお願いしたいのは、皆さんが住んでいる街、学校のある街に対して「シビックプライド Civic Pride」を持って欲しいということです。またそうなるために、街について未来のあるべき姿を考えて欲しいということがあります。未来を考える指標として「SDGs」を用い、「SDGs」の視点をもって街のあるべき姿を考えていきたいと思えます。

●担当する教員

専門の違う多様なバックグラウンドの教員による多様な観点からのチームティーチングによる講座ということも大きな特長の1つです。主に担当するクラス、そして教員からの「ひとこと」を紹介します。

A組 帖佐香織 教諭（社会科）

「台北、パリにも住んだ経験があります。人によって住みたい街は様々、この講座を楽しみにしています！」

B組 朴元姍伶 教諭（宗教科）

「私にとっても初めての学びです。東京の高田馬場に長く住んだので詳しいです。様々な視点から皆の意見を聞きながら考えていきたいと思っています。」

C組 福田なな子 教諭（数学科）－この日はお休みでした－

D組 松野翔太 教諭（情報科）

「東京をはじめ都市部での生活を長く経験しています。その経験も授業に活かしていけたらと思います。」

E組 山田 Sean Thomas 教諭（英語科）

「ドイツ、トルコ、韓国にも住んだ経験があります。多様な仲間、多様な価値観、多様な言語で、inclusiveに、globalに、将来の問題解決のヒントを探しましょう！楽しみましょう！」

F組 西田喜久夫 教諭（国語科）

「京都生まれ、京都市育ち、京都暮らしです。京都の特殊性も参考に、皆と一緒に考えていきたいと思っています。」

●●SSS(Sustainable Society Study)では何を学ぶ？

この授業は3年間（2年SS Research、3年SS Designでは選択制）を通じてのプログラムとなります。特に高1全体が必修のSSSでは、3年間の統一テーマである「街づくり」をテーマに持続可能な

社会を目指す先進的事例について学びます。その中で、今後の学びのベースとなる基礎知識の習得に加え、リサーチやディスカッション、レポート作成、プレゼンといったアカデミックスキルズを身に付けます。

【SSS の目指すもの…基礎的な力】

- 1 Basic report writing skills
- 2 Basic research skills
- 3 Project collaboration and group work
- 4 Presentation techniques and methods

●●●本日の課題

- 1 Google Classroom に参加する。
- 2 自己紹介をする。
- 3 「シビックプライド」はどういうことか調べましょう。
 - ・どういう意味か
 - ・なぜ今、「シビックプライド」を唱える自治体が増えているのか
- 4 「SDGs」の正式名称を英語と日本語で正確に書きましょう。

この講座は、グローバル化が進行する世界において、世界的に解決すべき問題に向き合い、自分たちの問題として「街づくり」についての考察を通じて、グローバル・イシューに対する問題意識を持ち、それに対して 1 人 1 人が能動的に働きかけることのできる実践力を兼ね備えたグローバル・リーダーになることを目指します。他の授業とはまた違った、目標に向かって、それぞれの多様な体験や経験から思う存分意見を交わし、協力する、国際高校ならではの学びの時間にしていきましょう。



ホールに全員が集まったの授業の形態も初めての生徒たち。この講座では、こうして全員でホールにて、各教室に分かれてのグループワーク等、そして学校の外に出て校外学習など、様々な授業形態を予定しています。それぞれの場で、それぞれが果たせる役割を思う存分発揮してどんどん前向きにクラスに参加して欲しいと思います。

2021年4月24日SSS（高校1年生）－授業－

SDGsについて

SDGsという言葉について、耳にすることも多くなりました。皆さんの中には既に中学で学んだ人もいるかも知れません。今日は、この講座の持続可能な街づくりを考えるための指標ともなるSDGsについて、各教室にてグループワークを通して学びます。

●SDGsとは

Sustainable Society Goals = 持続可能な開発目標

【2000年 国連ミレニアムサミット】

国連ミレニアム宣言が採択され、翌年にミレニアム開発目標(MDGs: Millennium Development Goals)が策定される。これまでは米ソの冷戦により二分されていた世界が、このときようやく世界の課題（主に開発途上国の問題）を解決するための、2015年までの期限付き、具体的な数値目標、達成度の確認、といったことを含む共通の目標に向かって動き出す。

【MDGsの掲げる8つの目標】

- 目標1 極度の貧困と飢餓の撲滅
- 目標2 初等教育の完全普及の達成
- 目標3 ジェンダー平等推進と女性の地位向上
- 目標4 乳幼児死亡率の削減
- 目標5 妊産婦の健康の改善
- 目標6 HIV/エイズ、マラリア、その他の疾病の蔓延の防止
- 目標7 環境の持続可能性確保
- 目標8 開発のためのグローバルなパートナーシップの推進

【2015年 国連持続可能な開発サミット】

MDGs 開発アジェンダの節目の年、150を超える加盟国首脳参加のもと、「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」を全会一致で採択。人間、地球及び繁栄のための行動計画として、宣言および目標をかけた。この目標が、ミレニアム開発目標(MDGs)の後継であり、17の目標(Goals)と169のTargetからなる持続



可能な開発目標(SDGs: Sustainable Development Goals)である。MDGsとの大きな違いは、先進国だけでなく開発途上国も一丸となり目標に向かい行動すること。そしてMDGsの反省点から「誰ひとり取り残さない」ということをスローガンに掲げている。

特にこの講座で取り上げるのは、「目標11 住み続けられるまちづくりを」です。

●●グループに分かれて SDGs の 17 の Goals の中の Target について調べてみよう

今日は、下にある条件のもと、1 クラスの中で 8 グループに分かれて、各グループが担当する SDGs の 17 の Goals のうち 2 つを、グループの代表者にくじをひいてもらい決定します。

【グループ作りの条件】

同志社国際中学出身者 1 人以上、同志社国際中学以外の出身者 1 人以上、男女がそれぞれ 1 人以上、帰国生徒が 1 人以上

まだ新高校 1 年生としてのスタートを切って間もない生徒たちが、自主的に条件に沿ってグループ作りに挑んだことで、誰がどのようなバックグラウンドを持っているのか改めてお互いを知る良い機会となりました。

●●●今日の課題

グループで役割分担をし、担当する 2 つの Goals の中の各 Target について、それぞれ 50 字程度で要約しましょう。要約はグーグル・スプレッドシートに記入して下さい。



A 組の様子



グループ分けでは最初は苦労しました！



担当する 2 つの Goals を決めるくじ



調べるための iPad も各グループに用意

2021年5月1日 SSS（高校1年生）－授業－

Global Citizenship

SDGs 4.7

前回の課題をテーマにグループワークの予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大の状況を鑑み授業内容を変更しました。今日は SDGs の目標(Goals)の中の Target に注目しワークシートに取り組みながら SDGs についてより深く学びます。課題は、各グループに割り当てられた SDGs の 17 の Goals の中から 2 つ、さらに細分化された Target を読み、50 字程度に要約することでした。

テレビやニュースで SDGs が取り上げられ目や耳にすることが多くなりましたが、Goals の具体的な内容まで把握している人は多くないと思います。まず SDGs 4 つのめの Goal「QUALITY EDUCATION : 質の高い教育をみんなに」の 7 つめの Target に注目します。

2030 年までに、持続可能な開発と持続可能なライフスタイル、人権、男女の平等、平和と非暴力の文化の推進、グローバル・シチズンシップ、文化的多様性と文化が持続可能な開発への貢献の理解の教育を通じて、すべての学習者が、持続可能な開発を推進するために必要な知識及び技能を習得できるようにする。

この文章を読んで気付くように、SDGs の 17 の Goals はバラバラに存在しているわけではありません。例えばこの Target の中には、「持続可能な開発」ということが 3 回も出てきます。また文章にある以下の言葉は別の目標とも共通しています。

- (ア) 持続可能なライフスタイル
- (イ) 人権
- (ウ) 男女の平等
- (エ) 平和及び非暴力的文化
- (オ) グローバル・シチズンシップ
- (カ) 文化多様性



グローバル・シチズンシップとは？と問うとき、私たちが日頃様々なレッテルを貼られ、また様々なカテゴリーの中で生きているとしたら、例えば「同志社国際高等学校生」や「日本人」のように、「地球に住むもの」というカテゴリーで、社会的な問題を、地球に住むものとして、地球規模で考えて地球規模で解決をはかる責任を持った人を指します。この講座を通して、日頃から様々な問題について「なぜ？」という視点を持ち、また自分の行動が社会にどのような影響を及ぼしているのか想像力を働かせて欲しいと思います。

2021年5月8,22日 SSS（高校1年生）－授業－

まちづくり

まちづくりについてどんなイメージを持っていますか？街は様々ですが、自分が街を創っているという感覚のある人は少ないかも知れません。しかし、誰もがどこかの「まち」に住んでいます。住んでいる街は好きですか？例えば大学生になった時（たったの3年後！）に1人で住むことになったとしたら、どのようなところに住みたいと思うでしょうか。

●理想の街について一緒に考えてみましょう

住みたい街とは？（生徒たちの意見より）

駅近・安い・静か・食べ物美味しい・スーパー近く・Uber Eatsの配達圏内・自然（公園がある）・生活圏内に全てが揃う・地盤がいい・病院が近い・ご近所が仲良い などなど

人によって優先順位は様々ですが、いくつかの条件の下に住む場所を決めると思います。

○住みよさランキング（東洋経済新報社 2020年）

「利便性」「安心度」「快適度」「裕福度」を、信憑性ある統計データから算出し、項目ごとの順位と総合順位を出した表があります。



【関西の総合上位】想像した結果と比べてどうでしょう？

大阪市：安心度は798位/830と下位だが、他の3項目で健闘、利便性は8位→総合1位

葛城市：大阪市とは対照的に利便度は633位ながら、安心度、快適度共に上位→総合2位

草津市：大阪市と同じく安心度は685位と下位だが、他の3項目で高順位→総合3位

箕面市：裕福度を筆頭に、快適度、利便性、安心度の順番で平均的に高順位→総合4位

○住みたい街ランキング（リクルート住まいカンパニー-SUUMO 2021 関西版）

実際に住みたいと思う街を人々のアンケートから算出した表です。ランキングから、自分の街が上位だどこか誇らしい気持ちになり、下位または入っていないと少し残念な気持ちになります。興味深いのは、上の統計から算出された住みよさランキングとの違いです。実際に人々が感じる住みたい街と統計から算出される住みやすい街は一概に共通していないことに気付きます。

【関西の上位】みんなの街はどうでしたか？

1位 兵庫県西宮市/2位 大阪市北区/3位 大阪市中央区/4位 神戸市中央区/5位 大阪市天王寺区/6位 大阪府吹田市/7位 京都市中京区,神戸市東灘区/9位 兵庫県明石市/10位 大阪府豊中市

自分の住んでいる街を改めて振り返ったり、将来住む街を想像してみたり、とても活発に意見を出し合った生徒たち。住む人達が意見を出し合い、まちづくりに参加することがシビックプライドを育てる原点にあることに少し気付くことができました。こうして街が創られていけば、なんだか楽しそうだなと感じることができました。

●大阪府立大学 准教授 武田重昭先生の講演について

実際まちづくりに私たちはどのように関わっていけるでしょうか。この講座では、まちづくりをテーマとし研究され、携わっている方をお迎えしてお話を伺う予定です。講師の方は、人生と都市を魅力的にする『パブリックライフ』について研究をされている大阪府立大学の武田重昭先生です。この大変貴重な機会に、武田先生からどのようなことを学ぶのか、そしてどのような準備をして臨めば良いでしょうか。本日のレジュメを通して一緒に考えます。みなさんに問う箇所もあるので当たった人はぜひ自分の考えを皆にシェアしてください。

大阪府立大学 生命環境科学研究科 緑地環境科学分野

武田 重昭先生の研究内容について

住宅団地やニュータウン等の計画的に整備された集住環境におけるオープンスペースをはじめとする都市の緑地空間を対象として、その空間形態とそこでの生活行動や運営の仕組みとの関係性を分析し、保全・継承すべき緑地環境の特質を明らかにするとともに社会状況の変化に対応した活用の方法や生活者の新しい関わり方によるマネジメント手法について研究を行っています。
(大阪府立大学ホームページより)

人生と都市を魅力的にする『パブリックライフ』について研究しています。UR 都市機構、兵庫県立人と自然の博物館を経て、現職。共著書に「シビックプライド」「いま、都市をつくる仕事」「都市を変える水辺アクション」ほか。共訳書に「パブリックライフ学入門」

(武田先生の Twitter アカウントより)

自分だけが心地よく魅力を感じているのではなく、街全体が魅力的、そこに住む皆が心地よく生活できること、それがパブリックライフです。武田先生のご研究の中にはまちづくりに関するこういったワクワクする Keyword が登場します。

問い：魅力的なまちとはどのようなまち？ 住みやすいまちとは違う？

生徒「他にはない、何かシンボリックなものがあるまち」

生徒「最先端のリサイクル施設など環境に配慮しているまち」

○なぜ武田先生に講演にきていただくのか

武田先生が共著者、共訳者のお 1 人でもある次に紹介する 2 冊の本を読んでもと 2 つのテーマについての考察を読み取ることができます。

★魅力的な都市とはどのような都市か

『シビックプライド 都市のコミュニケーションをデザインする』（宣伝会議、2008年）

例えばヨーロッパは、小さな都市もそれぞれ特色があり、また趣があります。住民が関心を持って関わって、まちに愛着を持っています。この著書の中では、そのプロセスに注目し、都市の再生政策を進める上で市民の街づくりに関するコミュニケーションがとても重要なこと、そしてそれがあって初めてより多くの市民の共感のもとに計画が進み、人々の都市に対する愛着が生まれることについて解説されています。

★パブリックライフが注目されるようになった歴史的背景

『パブリックライフ学入門』（鹿島出版会、2016年）

今から60年も前に、NYの都市計画についてジェイン・ジェイコブスが味気ない空虚な未来都市像を批判したことが当時は革命的であったこと、そして現在では都市を使う人々の姿が政治家やプランナーに見えるようになり、都市住民＝パブリックライフが活性化するよう、積極的に計画することができます。かつて軽視されたパブリックライフは、21世紀に入り今では都市の魅力に大きな影響を与える確立した分野になりました。

問い：あなたの理想の街とはどのような場所ですか？

生徒「きれいなお花畑のあるまち」

生徒「近隣住民皆が仲の良いまち」

問い：豊かなパブリックライフをデザインすると聞いて、どのようなことを思い浮かべますか？また、パブリックライフが充実した街に住みたいと思いますか？

生徒「地域の人で話し合える街 / イメージが湧かず住みたいかわからない」

生徒「地域のイベントが多い街 / 住民として祭りに参加したい」

○まとめ

人によって理想の街は違うもの。そして、イメージするパブリックライフも様々です。でもそういった人達が自分のまちづくりのために有意義に意見を交わし、街を創ることができれば楽しそうだなとも思いませんか？住む人達が積極的に意見を交わすことができる街の仕組みや制度が整っていけばとても理想的だと言えます。それでは実際に武田先生のお話を何うのを楽しみにしっかり準備をしましょう。



2021年5月29日 SSS（高校1年生）－講演－

大阪府立大学 武田重昭先生 講演「持続可能なまちをつくるために」

今日は大阪府立大学の武田重昭先生を実際にお招きし貴重なお話を伺う機会を持つことができました。ホールで密になる状態を避けるために、生徒はホールと教室 2ヶ所に分かれ、3ヶ所をつないでオンライン配信を試みました。武田先生は緑地計画学（Landscape Architecture）を専門に研究され、多くのまちづくりの実例を通してシビックプライドの構築についても大変詳しく書籍や多くの講演等でも発信を続けておられています。本日は限られた授業時間内ということで、事前の生徒たちの質問にできるだけ答えていただけるようなスタイルの講演をご用意くださいました。

問い① 理想のまちってどんなまちですか？

- 理想的なまちはどのようにできてるだろう？

存在効果 = 空間の魅力（そこにその空間があるだけで発揮される）

利用効果 = 生活の魅力（人々が利用する）

空間の魅力 + 生活の魅力 = まちの魅力

- 媒介効果（空間を利用することで周辺にもどんどん波及していく効果）

こういった効果が生まれれば生まれるほど、魅力的なまちへ

どんな素敵な空間があっても使わなければ意味がない

私たちにはまちを使う想像力が求められている



問い② パブリックライフで私たちの暮らしは豊になりますか？

- プライベートな生活は豊かパブ ↔ リックな生活は貧しい

日本で起こっている例：家の中は住み心地の良い空間、しかし外に出ると居心地が悪い

世界で起こっている人のための屋外空間（パブリックライフ）への生まれ変わりの実例

→通りを車のための空間から人のための空間へ

「パブリックライフ」を充実させるムーブメント

・NY ブロードウェイ

・デンマーク コペンハーゲン

・オーストラリア メルボルン

- まず外に出よう！良いパブリックライフを体験してみないとわからない！

日本の美しい四季を感じてみよう

人々は屋外での暮らし、風景、そういったものを見てその街の魅力を感じている

パリのパブリックライフ、日常だが映画のワンシーン！？

パブリックライフを見る側の私たちも幸せに→心地良い空間の共有が生活を豊かに

●パブリックライフが大きく地域を変える可能性

・徳島県神山町：過疎化の地域から wfi 環境を整え本社機能の移転、よい環境、清流で仕事

・和歌山県有田市：有田焼の窯元が屋外レストランを、世界から人が訪れるように

パブリックライフ＝公共空間で他者と直接的・間接的に関わりを持ちながら過ごす社会的な生活

パブリックライフを育むのも人！屋外空間を使いこなす工夫、プロデュースが必要

●10000 人の 1 回の大規模なイベントより 100 人の 100 回の日常的なできごととしてのイベントを！

一時的な盛り上がりより緩やかなベクトルを上向きに保つまちの発展の持続性を

にぎわいを作るのは簡単、1 人でも豊かに上質な時間を過ごす空間を作ることは難しい

集団の喚起ではなく、他者を思いやるような関係性が生まれる空間

「離散的空間」

自立した人間であるとともに、連帯する人間でもあるような集合としての共同体（原 広司）

●協働 VS 共同：Collaboration から Common へ

チームで力を合わせ 1 つの目標に向かうよりも、それぞれの人が思い思いに行動しながらも他者に対する連帯感や一体感があり一緒にいる価値を生む時代が来ている

問い③ なぜシビックプライドが必要なんですか？

シビックプライドを考えると、なぜ市民がまちづくりに関わることが必要なのかが答えになる

現状：日本の人口推移→減少（国土交通省白書より）

建設費予算の推移→新しいもの作れない、現存の建物の管理も難しい

●「新しい公」

国民・住民にも地域への貢献を求める社会

与えられることへの幸福感から自己実現で誰かに何かを与えることで幸福感を得る時代へ

行政が対応仕切れないことは住民同士でカバーする

●市民をアクティバート（起動）する

インフラは行政が担当しても、その先の細かいことは自分たちで解決するツール

「ラストワンマイル」細部は現場に一番近い人達が変わっていく（デンマーク）

●まちをつくるのは、市民のまちに対する誇りや愛着！

本当のシビックプライドが必要な理由として思うこと

→まちを創るのは自分なんだという気概

まちをつくる一員なんだと思えるかどうか

・大阪城を造ったのは市民（全額市民の寄付で再建されている）

・市民吹田サッカースタジアムは市民や企業の寄付で建てられた

●シビックプライドがあるかどうかでまちの魅力は変わってくる

住んでいる地域に誇りや愛着をかんじますか？

→日本では半分の人達、欧米では7割8割

自分がこの都市を構成する一員であり、都市をより良い場所にするために関わっているという意識を伴う
つまりある種の当事者意識に基づく自負心といえる

●シビックプライドを育てるキャンペーン

you are your city (バーギンガム)

I LOVE NY (ニューヨーク)

BARCELONA BATEGA! (バルセロナ)

I amsterdam (アムステルダム)

日本の国旗掲揚? 愛国心? とは違う

特に、I amsterdam 私自身が都市なんだという意識はさらに強い関わりを感じるもの

●都市と人とのコミュニケーションポイントをデザインする

コミュニケーションポイント: 都市情報センター

都市を共感するアクティビティ、理解する情報のデザイン、アイデンティティを感じるシンボル、体験する空間のデザインを個別ではなく関係づけて1つのメッセージとして結びつける必要性 ヨーロッパのまちではどこにでもある組織

問い④ 多様な価値観をどうやってまちに活かすことができますか?

いろいろな人がいて、たくさん個性をどうやって1つのまちに繁栄させていくのか

「みんなの公園」から「わたしたちの公園」へ

みんなのものだからと規制するのではなく、使うわたし達の立場に立った公園の運営

気持ちのコミュニケーションの大切さ、あり方

●まちの価値は人の気持ちによって変わる

まちをつくるプロは可能性を持った空間は提供できるが、実際に価値が生まれるかどうかはそこを使う人達にゆだねられる

まちづくり=人々の気持ちづくり

●これからのまちづくり

今までのまちは誰かがつくってくれたもの

ブラジリアの例: 1人の都市計画課と1人の建築家が自分たちの理想によってつくったまち

→専門家による機能的なまちのはずが、住民にとって住み良い心地良いものではなかった

これからは、誰かにつくってもらうのではなく、自分たちがつくる

→もっとまちを好きに、身近に、もっと自分のこととして感じられるように!

武田先生のご研究の分野に関するお話は、街づくりを通して持続可能な社会について学び考察している生徒たちにとって、全てのキーワードが鮮明に印象に残り、大変興味深くそして貴重な学びの機会となりました。今日は私たちのために、貴重なお話をいただき本当にありがとうございました。



2021年6月5日 SSS（高校1年生）－授業－

スライド作成/プレゼンテーションのための情報デザイン

今日は WWL では主に D 組と F 組の担当として教員メンバーに加わっている松野教諭、そして山田シヨーン教諭に、プレゼンテーションのための資料制作や基礎知識についてレクチャーを受けました。山田シヨーン教諭は、日頃、英語科で英語での弁論や国際大会のサポート、また難しい課題に対してのディベートやエッセイ作成などに取り組み、松野教諭は情報科でネット上の情報収集やコンピュータでの資料作成の知識、倫理的な観点からも深く掘り下げて授業をしています。2 人とも専門的な立場で指導するプロフェッショナルです。

- Effective PowerPoint Presentations

プレゼンテーションの際に効果的なパワーポイントの作成におけるアドバイスを、3つの Key stone から押さえましょう。

- Be consistent and simple
- Focus on the information
- Limit the amount of information

見る側にとって情報が理解しやすいように整理され、それに加え

てワクワクと興味をひくような画像である工夫がとても大切であることを学びました。またパワーポイントなどの資料がうまくできていても、肝心の発表者の練習や準備が万全である必要があります。

- Practice makes perfect
- Always consider your audience
- Do you need to use a PowerPoint Presentation?



●プレゼンテーションのための情報デザイン



さらにプレゼンテーションのスライドを作成する際の基礎の基礎のお話です。

- 本当に必要？ 発表者あつてのスライド
- 構造を視覚的に表現 羅列/分類/整理/図示
- 見やすさ 可読性/視認性/判読性
- 文字の大きさとフォント 書体による印象より視認性
- 色のデザイン、余白のデザイン 効果的な色・コントラスト・余白の使い方

- 要素の配置 目線の動きは左から右、上から下、大項目から小項目へ
- カラーユニバーサルデザイン 色認識の個人差に配慮

2021年6月12日 SSS（高校1年生）－授業－

まちづくりとは

武田重昭先生講演のふりかえり

先日「まちづくり」について講演いただいた武田重昭先生のお話から、受講者全員にコメントシートを提出してもらいました。今日はその一部をシェアし、講演を振り返りたいと思います。生徒たちは感想を共有し、改めて気づいたこと、感じることをワークシートに記入していきました。各クラスでの講座となった今日ですが、急遽 E 組と F 組はネットの同時配信を駆使した共同授業となり、この珍しい試みは、違うクラスと一緒に盛り上がるという楽しい体験にもなりました。

【生徒たちの感想より】

- 今まで何気なく見てきた街のデザインや構成には様々なアイデアが組み込まれていることを知ることができました。
- 僕もアメリカのコッペルという市に住んでいて、たくさんイベントがあって、市民が街を良くしているんだと改めて感じました。
- アメリカ合衆国 35 代大統領ジョン・F・ケネディは、「国家があなたたちに何をしてくれるかを求めず、国家のために何が出来るかを考えてください」と言いましたが、まさに街についても同じだと思います。
- 「街づくり」は一言に収められるものではなく、倫理的な知識、相手を敬うこと、様々な設備や制度などの使いやすさについて考えることなどいろいろな関わりがあっておこなわれているんだと感じました。この学校だからこそ議論できることをたくさんしていきたいです。
- 上海では昔の古い通りがたくさんあり、近年壊され、開発中となっています。実際それは過去とくらべ



人びとの生活にプラスはなく、逆に静かになってる気がします。こういうことの違和感が、確かに今回解消された気がします。

- 私達はすぐに「誰かがやってくれるだろう」と考えてしまいましたが、やはり自分から考え、行動することが人として、とても大切なのだと感じました。外面的な美しさも大切ですが、それと同時に「住みやすさ」というものを作っていくにはどうしたらいいのかなと深く考えました。今回の講演会がなければこんなことは今まで考えなかったのかなと思いました。
- 自然や利便性なども重要、でも1番大切なのは市民の街に対する誇りや愛着だと思いました。
- 「1万人が年に1度より、100人が年に100回」という言葉のように、常に活気があり、人々に寄り添うまちが良い街なのだと思います。
- 街づくりには強いリーダーとそのフォロワーが必要だと思い込んでいた私はリーダーシップよりフォロースhipの方が大切だと聞き面白味を感じました。
- 今回の講演を聴いて考えたことは「街」というのは人間主体の概念であるということです。機能やデザインに重きをおきすぎて設計された都市や空間では人々は最大の安らぎを得ることはできないことが、ブラジリアやお話に出てきた兵庫の公園の例から強く感じられました。
- 私はなぜSSSで街について学ばなければならないのかわかりませんでした。しかし先生のお話を聞いて、将来は私たちが中心となって社会を動かしていかなければならないと知り、将来後悔しないように今学んでいるのだと思いました。最も心に残ったことは、日本は外国と比べて緑や公共施設を利用しきれていなかったことです。
- 僕は今まで一度も自分の住んでいる街が住みやすいと思っていませんでした。そのことにいつも不満でいっぱいでしたが、今回の武田先生の授業を聞いて、自分から率先して意見を出し、誰かに街を変えてもらうのではなく、自分を変えていくことが大切だと学びました。
- 先生の話の「コロナを経験している私たちには『他者を思いやること』『同じ空間を共に過ごすこと』が必要だ」という話がとても印象的でした。
- 自らを都市の一部だと考え、誇りを持つ“シビックプライド”を重要視し、人と都市のコミュニケーションを重視することの大切さ、それがいかに街の魅力につながるのかを学びました。“It’s our space”を意識して町（都市）の豊かさにシビックプライドを持って貢献していきたいと強く思いました。

- 普段私たちは何かがどんな良い効果を発揮するのかを考えると存在効果の面で考えることは多いですが、空間効果の面から考えることは少ないので僕にとっては新鮮な考え方でした。

【ワークシート】

- 住んでいる街の良いところについて
- 人々の表情が豊かで、活気あふれる街、みんなが安らげる街にするために
今の自分ができること
10年後の自分ができること
30年後の自分ができること
50年後の自分ができること
- 新しく便利な街として、古くからある街を開発することについて
- 街づくりにおいてこれからどんなことを勉強したり、身に付けることが必要か
- 街づくりについて日本が海外から学べることはどんなことか

経験豊かな、また様々な価値観を共有する国際生らしいコメントが多くみられました。生徒たちはコメントから改めて講演を思い返し、考えをまとめていました。武田先生のお話が、SSSでの学びの本質を理解し、今後につながる大きなヒントやモチベーションを得る機会になったことがわかります。

2021年6月19日 SSS（高校1年生）－講演・ワークショップ－

issue+design と Edo の講演

「SDGs de 地方創生」ワークショップ

今日は、この講座では2回目となる外部の講師の先生をお招きしてお話を伺う貴重な機会です。前回講演をいただいた武田先生は研究者としてのお立場でした。今回のお2人はまた違った角度から、実際に社会活動の中でSDGsを使って社会をどう見ていくか、持続可能な社会の課題とどう向き合っているか、多くのヒントをいただきました。



●講師の先生のご紹介

小菅 隆太 氏

特定非営利活動法人 イシュープラスデザイン理事

経済産業省「次世代空モビリティ政策室」CM

2010 年広報 PR コンサルタントとして独立。ビジネスセクター、ソーシャルセクター、パブリックセクターのトライセクターで活動するプロジェクトマネージャー。「社会の課題に、市民の創造力を。」issue+design には、代表作『地域を変えるデザイン(2011)』執筆協力から参画(現在理事)。NPO のメンバーとしての活動のほか、経済産業省「次世代空モビリティ政策室」コミュニティマネージャー/台湾ロマンチック街道台三線顧問/シーライン東京 PR 顧問/株式会社 soeasy 広報 PR 顧問/群馬県嬬恋村観光大使/日本愛妻家協会事務局長代理を歴任。「SDGs de 地方創生 GOOD DESIGN AWARD 2019 BEST 100 受賞」ディレクター。

盤所 杏子 氏

株式会社 Edo 副代表

ひだ木ふと 代表

リクルートジョブズで人材採用領域に携わった後、2015 年結婚を機に岐阜県飛騨市に移住。地元高校の地域連携コーディネーターとして課題活動支援などに取り組んだ後、2019 年教育支援会社 Edo を代表と 2 名で創業、主に地方部の教育魅力化プロジェクト、文科省事業コミュニティスクール推進、SDGs を始めたワークショップを活用した学び作りなどに取り組む。2017 年からは飛騨市の 70%を占める広葉樹活用のコンソーシアムメンバーとして、地元木工職人とともに小径木を活かした商品(ひだ木ふと)開発を個人事業主として手掛けている。国家資格キャリアコンサルタント/中学校・高等学校教員免許/SDGs de 未来構想ファシリテーター/ 飛騨市学園構想サポートマネージャー

●SDGs は自分と社会の繋がり - 盤所 杏子 氏

「私は群馬県飛騨市から来ました。群馬県飛騨市をご存知ですか？」

「アニメ、『君の名は』の三葉の暮らす場所といえばきっと知っている人もいますね！」

盤所さんは飛騨市で SDGs にも関わる教育支援や地方再生にお仕事を通じて携わっておられますが、はじめから SDGs が念頭にあったというわけではなく、その地域に住みその地域の役に立ちたいと始めた様々なことが、後で SDGs と深く関わっていることに気づいたとおっしゃいます。ご紹介してくださったのが、SDGs イシューマップです。今まで目にしてきた SDGs を表現するデザインとは違い、円の中に 55 のあらゆるイシュー（課題）が示され、SDGs の「17 のゴール」を 1-17 の数字順ではなく「人間性」「経済」「心身」「環境」の 4 パートで再配置し、17 のゴールが、すべてつながっていて、1つのゴールを達成するためには、他の目標とのつながりを考えなければならないことを理解するためにデザインされました。SDGs が持つ全体性や、連鎖を表現しています。「SDGs de 地方創生」ゲームのために作られたオリジナルマップでもあります。この表にご自身の取り組みを当てはめ、どの課題が自分と関係していて、興味があるのか、改めてそれぞれが単独で存在しているものではなく、深く繋がっていることにも気づかされ、日々の母親業に至るまであらゆる取り組みに意義を感じることができたそうです。生き活きと素敵に活動されている盤所さんがそういったことからやりがいを感じられていることがとてもよくわかりました。「創造力」と「想像力」、この学びや知識は何かきつと役立つ、一緒に行動する仲間を見つけよう、日頃からそのような意識を持ってワクワク過ごしてとエールを送っていただきました。

●SDGsの課題に包括的なアプローチで向き合う - 小菅 隆太 氏

「私は NPO や経産省など、いろいろなところに所属し、それを活かして社会非営利団体、公共団体、民間企業などの組織を繋ぎいろいろな役割を果たすトライセクターリーダーと呼ばれる働き方をしています。」

小菅さんは、その肩書きからもわかるように多彩な顔を持ち、幅広く活躍されています。今日は、盤所さんやご自身の働き方が、将来の働き方を選択する際の参考になればとお話を始めてくださいました。また数々の取り組みの中から、issue+design が日本各地で行ってきた地域や社会の未来のための住民参加型のプロジェクトの一部をご紹介してくださいました。ここではデザインとは、美と共感で多くの人の心に訴え、創造を喚起し、社会に幸せなムーブメントをおこす行為全般を表しています。

- 神戸「できますゼッケン」：復興ボランティアのスキルを可視化
- 初台「Frog by TOYOTA」：人がつながり街を発見する 5km/h の新型モビリティの開発
- 高知県佐川「さかわ発明ラボ」：地域資源とデジタルアプリケーションの力で地域・生活を豊かに
- 「みんながリリリになれる交通安全社会を築くための未来を語り合う
- 「ブレ転シングルマザー手帳」：孤独に悩むすべてのプレ・シングルマザーの手助けに
- 「認知症未来共創ハブ」：認知症とともによりよく生きる社会の実現に向けたパートナー市民の募集

社会の課題に市民の design(想像力)をというテーマの元、どの取り組みも社会の課題に市民の想像力が活かされ、対話と協働で成り立ち、小菅さん達の活動はそれらを繋げています。持続可能な地域とは、人と経済の豊かな生態系でできている、そのために地域に蔓延する分断の関係を再生するために全てが繋がっています。その事を分かりやすく示すために円形の SDGs イシューマップを活用されています。世界は繋がっていて、分断を乗り越え、対話と協働で包括的に課題に取り組むという根本的な姿勢を示してくださいました。課題があるということは解決策があるというポジティブな視点に立ち、クリエイティブな魅力溢れるパワフルな小菅さんが印象的でした。

●ワークショップ「SDGs de 地方創生」を体験！

お 2 人には、講演の後も引き続きお時間をいただき、事前に募集をした 24 名の生徒たちを対象に、また数名の教員も加わり、ワークショップを開催していただきました。お 2 人はこのワークショップを主催・開催するファシリテーターとしてもご活動されています。今日は、その特別なワークショップを体験させていただけることも大変貴重な経験となりました。



「SDGs de 地方創生」は、issue+design が開発に携わり、カードゲームを通じてまちの未来を創造的に考え、参加者全員で体感できるシミュレーションゲームです。

さて、ここは K31 まちという架空のまちで、皆さんはその住人です。そして説明が始まると、最初は戸惑いと緊張で硬い表情だった参加者の生徒たちですが、住民としての役割、割り当てられた予算、12 年ごとの時間設定、「人口」「経済」「環境」「暮らし」といった状況メーター、プレイヤーと呼ばれる自分たちの行動次第でそのメーターが動きまちの様子が変化していくこと等の説明を受けると、どんどんゲームに引き込まれていく様子がわかりました。ゲームがスタートして、12 年間で繰り返される度に、もう席に座っている生徒は一人もおらず、どこかで誰かが誰かと交渉し、K31 まちをバランス良く豊にするという共通の目標のためにまとめようと大きな声で情報を共有するようになりました。こんなに一生懸命にまちのために交渉し、



努力する仲間がいれば素敵なまちができそうです！

小菅さん、盤所さんが一番大切だという振り返りの時間では、改めてゲームを振り返り、気づきを皆でシェアしました。

【参加した生徒たちの感想】

- まち全体を良くするには、必ずしもギブアンドテイクの関係ではなく、困った人がいれば、また皆の幸せにつながるなら、相手に譲る選択ができることが大事だと思いました。
- 自分たちの行動がまちを変えるという実感を得られ、ゲームを進めるうちに自分たちのミッションの達成を重視するよりもまち全体の目標に目を向けられるようになった。
- お金を確保することに必死だった時よりも、必要だと思う事業にお金を寄付するようになると地域が良くなることに気づき、助け合いの必要性を実感し学びになった。

個々の志を達成することよりも、まちを良くしたいという同じ目標があることを確認し合い、積極的な対話と協働の大切さに気づき、疲れも見せず爽快ともいえる表情を見せた生徒たちでした。SDGs を、まちづくりという身近なプロジェクトに照らし合わせながら、自らが取り組む一員だということを体感しながら、今後SDGsと向き合う時にも、1つの目標の達成にとらわれず、全体は連鎖しており、全体を一緒に引き上げるという包括的なアプローチを念頭に忘れずにいたいと思います。



本日は、長いお時間、そして貴重なお話と体験を、本当にありがとうございました。





2021年6月26日 SSS（高校1年生）－授業－

夏休み課題発表とその準備

緊急事態宣言が明け、まだお隣の人との会話を控えるなどのルールはありますが、生徒たちは久々のホールでの全体講座に嬉しそうな表情を見せていました。今日は、期末テストが終われば待っている夏休み、夏休み中の課題と、そしてその準備のためでもあり、以前のプレゼンテーションの際の基礎知識の続編となる講座です。

●夏休みの課題

テーマ：自分が住んでいる/住んだことのある街を紹介する
スライド作成

その街を、街の基本情報だけにとどまらず、スライドを見た人が、行ってみたい、住んでみたい、と思えるような魅力の伝わるものを工夫して作成してみましょう！

【ポイント】

- civic pride を意識すること
- 単に素晴らしいではなく、信憑性の高いデータ等でしっかり裏付けをすること
- スライドの作成にあたって

山田ショーン教諭より、以前のプレゼンテーションの基礎でも学んだ、ループリックの補足説明を伺います。



山田教諭は、この SSS のクラスが多様性のある講座であること、英語でなくても他の言語であってももちろんいいのですが、英語科の教師として英語で説明します。どうせ私はわからないと思う人がいるかも知れませんが、しかしそうではなくこれも自然だと受け止めて耳を傾けて欲しいと願っています。質問は時間外でも受け付けています。

【ルーブリックについて】

Rubric is a guideline for a list of criteria helping you to better understand the assignment.

- It's fair! Who work hard and spend a lot of time for your summer homework, of course get a higher grade.
- Five levels: Content/Slide Creation Pictures, Clip Art Background/Readability of the Slides Organization/Mechanics/Effectiveness
- Any languages! There are many teachers you can ask. Make sure to check the meaning of the word you use.
- Your own word! Don't just copy sentences on the website.
- Make it effective! Some of the cities you might be introducing your classmate might cause someone want to research about it or even visit the city next time.

評価する側もこのガイドラインに沿って評価をしています。つまり、スライドを作成する際に、このガイドラインは何をどうするべきかという指標にもなっています。なんとなく取り組むのではなく、ガイドラインに沿ってどのレベルまで達するか、5つのレベルがあるのでセルフチェックとして活用してください。

● 宿題のスライドのサンプルの紹介と改善例

情報科の松野教諭より、事前にいくつかのスライドの紹介と改善点についてレクチャーを受けます。改善点は帖佐教諭、山田教諭も加わり、それぞれにアドバイスを付け加えていきます。SSS を担当する教員が事前に思い思いに作成したスライドは、それぞれに全く違った個性、デザイン性を持っています。アドバイスを参考に、ぜひ個性光る街の魅力がいっぱい伝わるスライドを作成して欲しいと思います。



【メルボルン】

シンプルにまとまっている

(改善点)

・街ランキングを示しているのは良いが、その出典元や理由があればさらに良い

【パリ】

全体的におしゃれな感じ、地図も見やすい
(改善点)

- ・文字の情報が多く、分類・整列すると良い
- ・余白、また中心線を意識すると良い
- ・大きさの目安は誰にもわかりやすい指標を

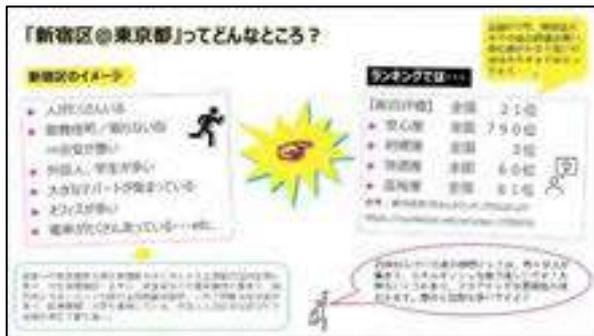


【東京都新宿区】

色の工夫やクリップアートでポスターのよう、洗練された都会的なイメージが伝わる

(改善点)

- ・治安悪い/外国人多いなど表記の順番で誤解を招く可能性もあるので注意
- ・良い部分のアピールがさらにあると良い



【アメリカ ミネソタ セントポール】

全体的にアートのように素敵
説明しきれない情報は URL の活用で補足して
いて親切

(改善点)

- ・写真が背景だと文字がみづらいので配置やバックグラウンドの工夫があれば良い



【京都市】

古都のイメージが伝わる背景、写真の入れ方
情報が整理されている

(改善点)

- ・左の人口構成の出典元があると良い
- ・写真の解説があるとより魅力が伝わる

【東京都豊島区】

情報がきちんと整理され、色の使い分けと地図で見
やすい

(改善点)

- ・情報量が多く、整然としているので魅力としては伝わりにくい
- ・写真も活用して魅力を伝えられると良い



●夏休みに取り組みそうなコンテストの紹介

SDGs について学んできましたが、時間のある夏休みにも応募することができるコンテストをいくつか紹介します。紹介したものに限らず、チャレンジしてみたい人はぜひ調べてみてください。

○IPA ひろげよう情報モラル・セキュリティコンクール

<https://www.ipa.go.jp/security/event/hyogo/>

情報モラル・セキュリティの大切さをテーマにした「標語」「ポスター」「4コマ漫画」作品と、本コンクールを活用して情報モラル・情報セキュリティ教育に取り組んだ学校を対象とする「活動事例」、小学生を対象にした「書写（硬筆）」を募集

募集期間：2021年6月1日（火）～2021年9月17日（金）

○Adobe SDGs クリエイティブアイデアコンテスト 2021 《GIGA スクールデバイス活用》

<https://www.adobe-education.com/sdgs-creative-idea-contests/>

国連が掲げる「持続可能な開発目標（SDGs）」の達成に向け、小中高校生から SDGs 達成に向けた解決アイデアを募集

応募期間：2021年7月1日（木）～9月30日（木）

○SDGs 探究 AWARDS 2021

<http://sdgs-awards.umedai.jp/>

世界の国や地域における SDGs 達成のために、私たちができる、または実施しているアクションについて ※日本など身近な問題への取り組みも含みます

応募期間：2021年冬（詳細は夏頃公開予定）

○第3回 SDGs Creative Award

<https://www.sdgs.world/outline>

サステナブルな未来のカタチ＝「SDGs：持続可能な開発目標」の実現にむけて、世界が抱えている課題や、地域での協働アクションをあらゆる方法で表現した動画作品を募集

応募期間：2021年6月14日（月）～9月26日（日）



2021年7月3日 SSS（高校1年生）－その他－

SDGs クイズ大会 2021

今日は1学期最後のSSS講座です。楽しく学んだことを振り返りたいと教員でSDGsクイズ大会を用意しました。司会は山田ショーン教諭です。今まで学んできたSDGsについて、「kafoot」というクイズ型アプリを活用して、全員参加で挑戦します。わからない問題は、推測してみて、その結果がどうであったか確認することも大きな学びになりますので皆さん、真剣に、頑張ってください！クイズの上位3名には教員からプレゼントも用意しています。

全40問、早押しで正解上位5名が数問ごとに発表されます！難問、また英語での問いも入り交じる中、正解発表の都度に入れ替わる順位に生徒たちは一喜一憂しながら、一生懸命クイズに解答していきます。SDGsのほぼ全てのゴールを対象とした出題であったため、クイズに答えながら改めて世界の現状を知ることにもなりました。飢餓、性暴力、未就学、水へのアクセスがない、また出生登録



すらされず法的に存在しない子どもの数など多くの生徒が自分たちの答えをはるかに超える数字を目の当たりにしました。世界では想像を超える多くの人がある環境のせいで、大きな苦難の中にあることを実感する時間でもありました。SDGsは誰かのためではなく、もしかしたら立場が違えば自分がその苦難の中にあっただかも知れない、解決しなくてはいけない当たり前の課題だと理解して欲しいと願っています。

【上位3名の生徒の感想】

- 勉強して来て良かったと思った
- 思ったより「やばい」厳しい環境の中にいる人達がいると思った
- SDGsを学ぶ大切さ、問題が実際に起こっていることを再認識することができた

【教員より】

- 他人事ではなく、自分を中心に世界を変えるというくらいの気概を持って欲しいと思っています。一緒に考えていきましょう！（山田教諭）
- 実際に自分に何ができるでしょうか？皆地球人としてまず知ることです。知ることができた皆さんと2学期から次のステップへ進みたいと思っています。（福田教諭）
- 前回紹介した夏休みのコンテスト等には、ぜひ積極的にチャレンジしてみてください、得るものはあっても失うものは何もありません！夏休みの課題であるスライド作成も楽しみにしています。元気に新学期お会いしましょう！

2021年9月4日 SSS（高校1年生）－授業－

研究とは？

緊急事態宣言発令中の2学期のスタートとなりました。高1全体での講義が1つの特徴でもあるSSS講座ですが、しばらくはオンラインを利用した分散スタイルで感染予防対策をしながら授業を進めていきます。2学期より全クラス、電子黒板システムとプロジェクターが導入され、オンライン化へのスムーズな移行を進めています。

今日は、1学期に学んできたSDGsや、持続可能な「まち」について考えるうえでの基礎的知識から、さらに研究を進めるための具体的な作業、プロセスについて説明します。

【研究を進めるプロセス】

①研究対象の明確化 ➡ ②研究対象の調査 ➡ ③研究対象の分析 ➡ ④研究成果

●調査とは

・机上の調査
先行研究などの多くの資料収集と検証

・フィールドワーク
「百聞は一見に如かず」

●フィールドワークの注意点

- ・目的をはっきりとする
- ・計画を立てる
- ・先方とアポイントを取る

●本校WWLプログラムとフィールドワークの紹介
どのフィールドを調査対象として選択するか



- 1 柏の葉「課題解決を目指し、公・民・学連携で目指すスマートシティ
- 2 富山市「歩いて暮らせるライフスタイルを可能にするコンパクトシティ（SDGs 未来都市）」
- 3 京北町「人と自然、文化が輝く、京北版『創造農村*』」
- 4 近江八幡市「SDGs への取り組みで目指す、人がつながり未来をつむぐまち」
- 5 淡路島「移住者による豊かな地域資源の再発見を通じた、働くことと生きることがつながるコミュニティ
- 6 神山町「移住者の多様な働き方によって生まれる、全員参加型コミュニティ」

各地で「豊かさ」を見つめ直し、地域の課題を乗り越えて人々がどう豊かな人生を送ることができるかといった独自の取り組みが始まっています。自分たちの未来を描くにあたって、これから訪れるかも知れないこういった地域の活動に興味を持って欲しいと思います。次回からはより深く、各フィールドワーク候補地について学んで行く予定ですので楽しみにしてください。

2021年9月11日 SSS（高校1年生）－授業－

フィールドワーク①近江八幡の場合

ポスターセッションの概要と事前に考えること

前回の講座では、持続可能なまちづくりを学ぶ一環として、実際に現地へ行って学ぶことの意義を知り、またそのフィールドワークの6つの候補地について説明を受けました。生徒たちはどこに行きたいかをイメージし始めているかも知れません。今日の前半は、候補地の1つである滋賀県近江八幡市について、事前にリサーチを行った帖佐教諭と朴元教諭よりお話を聞きました。そして後半は、これから自らのリサーチが進めばより必要なスキルとなるプレゼンテーションについて学びます。

【近江八幡市】

●概要

位置：滋賀県のほぼ中央に位置、琵琶湖の東岸

発展：古くから農業を中心に栄え、中世以降は陸上と湖上の交通の要衝という地の利を得て、信長の楽市楽座、秀次の自由商業都市と引き継がれ、近江商人の基礎を築く
まち：歴史的遺産、風情が薫る景観が受け継がれている

●近江商人、ヴォーリス

近江商人の家訓：「三方よし」時代を超えた普遍的価値

商いというものは、買い手によし、世間によし、すなわち取引が地域社会全体の幸福につながるものでなければいけないと共存共栄の精神→まちづくりのキーワード

ウィリアム・メレル・ヴォーリス/一柳米来留（1880～1964）：アメリカで建築家、キリスト教伝道師、来日し英語教師、理想郷の建設に向け伝道団体「近江ミッション」を設立、多くの社会奉仕活動では結核療養所であるヴォーリス記念病院、ヴォーリス学園の設立

同志社との関係も深く、今出川キャンパスの啓明館、アーモスト館、新島遺品庫を設計



なぜヴォーリスは近江八幡にとどまり続けたのでしょうか？近江八幡の歴史、近江商人の精神とキリスト教などの関わりを考えながらヴォーリス建築をみて、まちをまわるとその理由が見えてくるかも知れません。

●近江八幡市の取り組み

市役所：SDGsの実現に向け、自治体レベルで取り組みを進めるため平成29年4月に「近江八幡市SDGs推進本部」を設置

SDGs取り組み事例集の発行/近江八幡未来キャンパス2020

→伝統あるまちを継承していくために、高校生からまちの未来をデザインし地域を好きになる講座を実施
ラコリーナ近江八幡：農作物などの原材料を「お菓子」に仕上げ商いをするたねやグループもまた近江商人の哲学を受け継ぐ

本質的に自然と共生し、持続可能な社会を実現

目先の利益を追わず、50年後、100年後に豊かな大地に人々が集う幸せな暮らしをイメージ

ボードレス・アートミュージアム NO-MA : リーフレット「やさしい美術館ガイド」を発行、誰でも見やすく最初に手にするものから既にコンセプトを感じ取ることができる

地域住民との関係性を大切に育む

教育機関と連携して地域や NO-MA の作品の魅力を多く伝える

あらためてボードレスや共生という言葉について、そして“co-”という言葉について考えてみて下さい。

まちづくりは誰かが勝手にしてくれるものではなく、どのように関わっていくのか、どの世代も話しの輪に加わり、多くの意見が集まることがよいまちづくりに繋がっています。1つの例として近江八幡市について学ぶことは、新しい視点に気付かされるはずです。

【ポスターセッションの概要と事前に考えること -プレゼンテーション】

●何のためのプレゼン？

目的が一致しているか重要

●発表の手段

口頭発表の中のポスター発表/ポスターセッション ➡ 今日の講義のメイン

●ポスターセッションとは何か？

・発表内容を1枚のポスターにまとめて会場内に設置し、来訪者に口頭で説明や質疑応答を行う

・会場内には同時に複数の発表者がいて、来訪者は自由に見て回り、説明を聞いたり質問をする

・一定時間ごとに時間を区切ったセッション形式にして発表者も他の発表を聞く

●発表の前に確認すること

・どんな場で発表するのか、会の目的は何か？

・指定や推奨された様式があるか？

・発表を聞く人はどんな人たちか？

・発表を通して伝えるべきことは何か？

・話し手、聞き手にとってのメリットは何か？

・聞き手に期待することは何か？

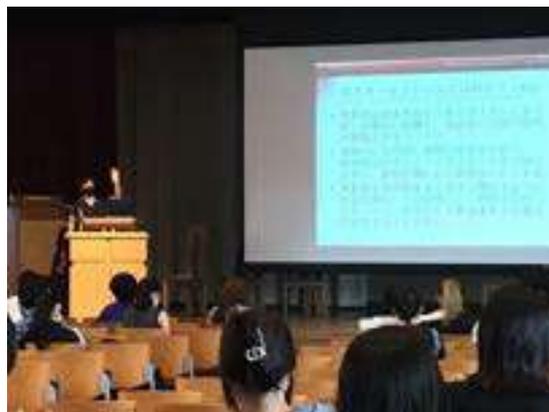
・手段に何をを用いるか十分に検討したか？

●ポスター発表の当日まで

1. 事前の確認（様式やサイズの指定/手書きか電子か/提出締切期日やポスター運搬方法）

2. 内容（会の趣旨に合うか/聞き手を想像して分量や難易度、表現は適切か）

3. 作成作業（見やすさ、わかりやすさ、倫理的か/伝わるべきことが伝わるか/質問と解答の想定）



最後にポスターの例をいくつか確認しました。リサーチしたことを、ポスター発表として最善の形で伝えるためには、丁寧な確認と作業、そしてきちんと段階を経て進めることが必要だということ、その手順を学びました。

2021年9月25日SSS-授業- (高校1年生)

フィールドワーク②神山町の場合

ポスターセッションの概要と事前に考えること (続き)

今日の前半は、先週の近江八幡市に引き続き、候補地の1つである徳島県神山町について、事前にリサーチを行った福田教諭と松野教諭よりお話を聞きました。そして後半は、いずれリサーチの成果を発表する際のプレゼンテーションの準備について、松野教諭よりさらに詳細に学びます。

【徳島県神山町】

●概要

位置：徳島県東部の名西郡に属し、徳島市内から車で45分

立地：周囲を標高1000メートル級の山々に囲まれ総面積の83%を山林が占める。吉野川の支流で一級河川の清流・鮎喰川が町を流れる

●キーワード

NPO 法人グリーンバレー：「神山町国際交流協会（1992年設立）」を前身とし「日本の田舎をステキに変える！」をミッションに2004年に設立

神山町生まれ育ちの大南氏が、家業を継ぐためにUターン、純粋にまちを楽しくしたいという気持ちで取り組んだ
消滅可能性都市：20年前に、20～39歳の女性の数が、2010年から40年にかけて5割以下に減るとされる自治体に選ばれる

創造的過疎：グリーンバレーの大南氏が2007年に作った造語

若者や創造的な人材を誘致し、神山町の人口構成の健全化を図り、多様な働き方が可能なビジネスとしての場の価値を高める

農林業にだけ頼らず、持続可能な地域を目指す

アーティスト インレジデンス：アートによる国際交流プログラム、神山町の地域づくりの原点

毎年3名のアーティストを神山町に招待し19年で21ヶ国から70名弱のアーティストがまちを訪れ、その中には定住する人も増えている

神山つなぐ公社：2015年に持続可能なまちづくりを目指す創生戦略「まちを将来世代につなぐプロジェクト」を策定

行政と民間をつなぐ役割を担う中間支援組織

現在は12人のメンバーがそれぞれの専門性を活かして、多方面でまちづくりに携わっている

●神山町の取り組み

ワーク インレジデンス：「何もない」ことから発想の転換で、手に職を持つ人たちの移住をサポート



2010 年からはサテライトオフィスの誘致、移住が始まる

森の図書館： 神山町の住民が鍵を持ち、人生の 3 つのタイミングで本を寄贈する仕組み

なんの変哲もなさそうに思える過疎の町神山町は、なぜ進化し続け、人々を魅了するのだろう。

神山町の取り組みは、コロナ禍の影響もあって最近のことかと思われがちですが、実は住民が 30 年以上前から「まちをおもしろく」をコンセプトとして続けてきた活動が現在に繋がっています。合い言葉は「やったらえんちやう」できることはどんどんチャレンジしたらいいいという寛大さ、訪ねてくる人たちにとっても穏やかでオープンな地域となり、それがとても居心地の良い、また人を呼ぶ良い循環になっています。人を惹き付けるまちの魅力は物理的に「何か」があることだけではないという、まちづくりの気付きをもらいます。

【プレゼンテーション（続き）】

●ポスター発表の当日まで

事前の確認：手書きか電子か？何か作る？プリンターは？

作成作業：見やすいか？わかりやすいか？論理的か？

➡ 今日の講義のメイン

●ポスターの想定

会場の目的：会場の目的を確認し、来場者が何を見、聞きに来るのかを明確に把握

サイズの指定：指定されたポスターサイズは A0 版の縦が一般的（A4 の 16 倍の大きさ 118.9×84.1 cm）

作成の方法：PowerPoint を使用

●事前イメージと作業フロー

事前に大きさをイメージ：図表を含めてストーリーを考える

使用するアプリケーション：PowerPoint が手軽でおすすめ、ほとんどの施設で使えることが多い

他のツールを使用した場合も、最後は PDF にすることが汎用性の面からもベター

印刷の方法：「大判印刷」なのか「分割印刷」なのか使用できるプリンターによって考えておく

●PowerPoint での作成のコツ

・レイアウト：白紙

・内容とストーリーを精査

・縦横のラインと余白を意識

・配置や隙間はできるだけ等間隔→配置機能を活用

●ポスターの作り方

良いと思ったポスターは、その理由を考えておこう

参考になる図書：宮野公樹「学生・研究者のための伝

わる！学会ポスターのデザイン術 ポスター発表を成功に導くプレゼン手法」化学同人,2011 年



リサーチしたことを発表する機会があった時に、内容を相手にいかに明確に伝わりやすく、また限られたプレゼンの時間の中でポスターも利用して印象に残るものにするための準備や知識を学びました。

2021年10月9日SSS（高校1年生）－授業－

フィールドワーク③淡路島の場合

今日は、近江八幡市、神山町に引き続き、候補地の1つである兵庫県淡路島について、事前にリサーチのために訪れた帖佐教諭よりお話を聞きました。「田舎の概念が変わった！」というのが率直な最初の感想だそうです。映像も交えてフィールドワークで訪れる各地の説明を受け、どのような学びが予定されているか確認し、最後に田舎の概念が変わった1つの要素として「コミュニティと豊かさ」について感じられたことを共有しました。

【兵庫県淡路島】

●概要

構成：淡路市、洲本市、南あわじ市の3市

位置：瀬戸内海の東端に位置し、東は大阪湾・奇襲海峡を隔てて大阪府・和歌山県に、西は大鳴門橋で徳島県に、北は明石海峡大橋で神戸市と隣接
→瀬戸内海の交通上の重要な場所に位置する！

歴史：日本で最も古い歴史書「古事記」「日本書紀」によると、イザナギ、イザナミの二神の神話にて国生みによって最初に生まれたのが淡路島であることが伝えられている。また平安時代の史書「延喜式」では、天皇家に食糧を収める御食つ国であったとも記される。

→日本の始まりの地とされ古くから重要な場所であった。また神様への食糧の提供の拠点であったことから豊かで良いものができる恵まれた土地であった！

●キーワード

・みんなで創る、協力する、元からあるもの、慣れ親しんだ場所を受け継ぎ大切にする

津名地区ノマド村：「ノマド」とは異動民、定住地である村という組み合わせ、いろいろな人が集まって、たえず変化していく、開かれた場として、仕事やコミュニケーションの場として解放、個人と企業、島の中と外、業種や人種の垣根を越えた新しいはたらき方を見つける場所の創造。

Awabiware：受け継ぐ器をコンセプトに日用食器を制作。「あわび」は淡路島の美しさ、「ウェア」は製品。伝統工芸の珉平焼（淡路焼）を継承。

・日常のなかにある普遍的なものを求めて

洲本中部 HIRAMATSUGUMI：淡路島の古民家を集めた暮らしの提案

案型古民家再生プロジェクト「recominca」やコミュニティ・スペース「233」の運営、淡路島産の素材を





使った家の提案「淡路島の家プロジェクト」など日常のなかにある普遍的なものを求めてそこで暮らすための建築に向き合う。

・田舎＝農業＝大変 を変える

三原地区淡路島西洋野菜園：有機農法の先進地、兵庫県丹波市でのワークキャンプに参加した柴山さんご夫妻、2010年に淡路島へ、元診療所をご自宅に有機農法で西洋野菜を栽培。淡路島の「島の食卓」の開催にも関わる。

・地元の人が主体ではなく、他からのアプローチによる地域活性化

北淡地区のじまスコラ（株式会社パソナ）：2008年より農業の活性化・独立就農を目指すチャレンジファームを皮切りに、人材誘致による独自の地域活性化事業に取り組む。廃校になった小学校を再生し、「食・農・学・芸」をキーワードに地域活性の情報発信基地として、交流の場としてイベントを開催。

訪れてみて…帖佐香織教諭の感想

「田舎」は「都会」になるべきか、改めてそこで暮らす人々の価値観や取り組み、生活スタイルに触れて考えさせられる貴重な体験でした。「没場所化（どの場所も外見、雰囲気まで同じになりアイデンティティが喪失）する郊外」「ワークライフバランスの現実が難しい生活」「地方文化の伝承が重要な理由」に対する解答を与えてくれるような画期的な学びでした。

訪れてみて…山田 Sean 教諭の感想

Reform/Rebuilding/Renewal/Revive/Reassess

SDGs を心に入れて生活することを実践、

Gain the knowledge and practice what you can.

淡路島での各訪問先から、そのネーミングも再利用している建物も取り組みも、いわゆる「田舎」という勝手なイメージとは違い、オシャレで、明るく、洗練された雰囲気まで感じさせられます。田舎は、人口減少や効率化からしても消滅していても仕方がない、当たり前のようにそう感じていたことが、歴史ある日本の文化や伝統が途絶え、また単一化しかねない都市やまちづくりが私たちの大切なものを奪っていたのではないか、素敵に良き古き伝統を受け継ぐこともできる、将来何を守りどう生きることが自分にとって他人にとっても幸せなのか、様々なことを再度考えさせられました。また淡路島のそれぞれの場所から、地域作りにおいても、理想を持った仲間が集い、その輪を広げ、話し合うことができるコミュニティが大切だと感じます。

これで、現在までのフィールドワークとして予定されている訪問地の解説は終了です。新たな追加の訪問先、フィールドワークの時期、募集などについては改めて説明します。

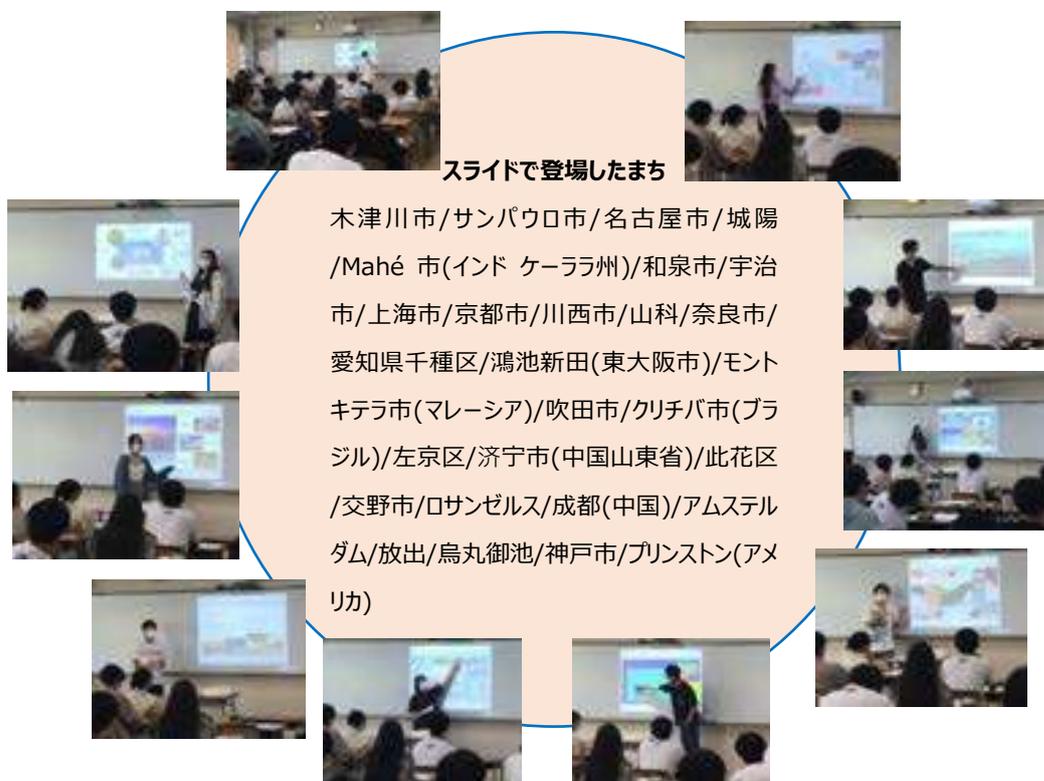
2021年10月16日SSS（高校1年生）－授業－

In-Class Presentation

各クラスで、夏休みの課題であった「自分が住んだことのある、または住んでいる街を紹介する」スライド制作を1人1人発表します。また全員の発表を視聴し、発表や、自分のスライドを振り返って気付いたことをワークシートに記入します。次回の全体授業で発表するクラス代表3名を投票によって決定します。

●評価の基準

1～2 学期に松野教諭から受けたスライドやプレゼンテーションについての説明、および 2 学期に山田教諭から受けたスライドについての説明とルーブリック（評価表）を参考にしましょう。

**スライドで登場したまち**

木津川市/サンパウロ市/名古屋市/城陽市/Mahé 市(インド ケーララ州)/和泉市/宇治市/上海市/京都市/川西市/山科/奈良市/愛知県千種区/鴻池新田(東大阪市)/モントキテラ市(マレーシア)/吹田市/クリチバ市(ブラジル)/左京区/济宁市(中国山東省)/此花区/交野市/ロサンゼルス/成都(中国)/アムステルダム/放出/烏丸御池/神戸市/プリンストン(アメリカ)

●プレゼンテーション

A 組の発表の様子を紹介したいと思います。1 クラスの中にこれほど違った地域、国にルーツを持つまちが登場することに改めて国際高校らしさを感じます。スライドは基本的に1枚にまとめられ、それぞれに違った工夫が見られました。スライドから街の雰囲気だけではなく、住みやすさが伝わるものも多く、これまでの学びが活かされていました。住んだ人だからこわかる街での生活の様子やその街の特徴なども取り入れられ、大変楽しいプレゼンテーションの時間となりました。お互いの住んでいる、住んでいた街について知ることは、相手を理解し、自身の知識や視野を広げるきっかけになりました。プレゼンをする様子は、熱意に加え、そのまちに対する愛情がたっぷり、予想を超える生徒たちの持つ地元愛が伝わってきます。この中から3名を投票で選ぶことはとても難しそうです。

2021年10月23日 SSS（高校1年生）－授業－

Presentation A,B,C

各クラスで、夏休みの課題であった「住んだことのある、または住んでいるまちを紹介する」スライド制作を1人1人発表し、投票により代表の3人が選出されました。かなりの接戦であった様子です！
今日は、A～C組の代表がホールで発表し、D～Fの各クラスと中継で繋いで全体発表を行いました。

●プレゼンテーション

A組

【天理市】

宗教が名前になっている日本で唯一のまち

宗教が根付いている影響もあり、地元愛あふれる優しい人たち、大好き！

天理グッズ、天理ラーメンなどの他にないオリジナリティを持つ



【クリチバ市（南米ブラジル）】

持続可能な都市としてデザインされた計画都市

→バリアフリー都市/公共交通料金は低価格/先進的なゴミ分別回収、24時間清掃活動

パブリックスペースでの市民イベントも活発、美しく整備された治安のよい都市として日本人も多く居住

【成都市（中国四川省）】

痺れるような辛さの四川料理、パンダの故郷としても有名

中国で一番住みやすい都市に選出、地形の特徴から歴史的にも戦争や災害から免れ平和を維持

大都市でありながら、ゆったりと暮らす生活



B組

【厚木市】

多くの大都市へのアクセスが大変良い

都会と田舎の両方の良いところ、そしてほどよく全てが揃っている！

都会でありながら、2つの温泉地帯を有し、暮らしやすく満足度が高い

【京田辺市】

「便利でええやん京田辺！」3 都市へアクセスのよさは抜群

一休さん、竹取物語、玉露など、歴史あるまち

京田辺は郷田辺であり共田辺→心の里、豊かな郷土食、みんなで共によくしていくまち



【Maryville (アメリカテネシー州)】



1 年を通して自然災害のない安定した気候
グレートスモークマウンテンといった国立公園を有し、豊かな生態系が息づく
米英戦争の際に多くがボランティアに志願、
今も「ボランティア州」として住民はその精神を

受け継ぐ

C組

【宮古島】

独自の文化、伝統芸能

世界にも誇る美しい海・ビーチ

離島、台風多発といった困難も

上回る豊で美しい自然の魅力



【武蔵野市】



国内での人口密度第 2 位/住みたい街関東 2 位

市民に愛されるゆったりと過ごす憩いの場所
「井の頭公園」、他にもほぼ徒歩 5 分圏内に公園のあるまち

公共交通が充実、空港へのアクセス良い、必要なもの全て揃う

●発表の様子

「みなさんこんにちは！」と元気よくスタート！それぞれが課題であったスライド制作はもちろん、発表の仕方、伝え方、内容に工夫を凝らし、それぞれに個性がありました。例えば「皆さんはまちにどのようなものを求めますか？」といった問いかけや、目をつぶってもらい、情景を説明し素晴らしい朝の光景を想像させる工夫など、いずれも短い時間の中で印象に残る発表でした。

国際らしさを感じる様々な地域からの発表の中で、発表者自身が留学生であったり、そこで育った経験から、地元出身者ならではの情報が満載で楽しく視聴していました。発表者に共通していたことは、そのまちに対する愛情の深さを感じられたこと、そのまちを好きになって欲しい、一度訪れて欲しい、という熱い気持ちでした。まちを改めて知り伝える機会を持つことは、普段は眠っているシビックプライドを育み、思い起こすことにもなったようです。そして実際にプレゼンにあったまちを訪ねてみたいと感じた生徒も多いはず！

2021年11月6日SSS（高校1年生）－授業－

Presentation D, E, F

各クラスで、夏休みの課題であった「住んだことのある、または住んでいる街を紹介する」スライド制作を1人1人発表し、今日は、前回のA～F組に続き、D～F組の代表がホールで発表し、A～Cの各クラスと中継で繋いで全体発表を行いました。



●プレゼンテーション

D組



【サンノゼ市（アメリカカリフォルニア州）】
観光のシンボルはウィンチェスターミステリーハウスくらい！
1年を通じて温暖な気候、IT企業が集まる
公共施設・商業施設の充実/学校教育のレベルが高い
/地域内の潤滑なコミュニケーションで多文化でも共に
つくるよりよい暮らし

【京田辺市】

豊かな自然ほどよい郊外で、立地よし、環境よし
特産品の玉露や海老芋やなすを中心とした農産物は地
域の誇り
歴史ある寺院も多く、代表的な一休寺も市内外の人に
愛される心落ち着く場所



【シドニー市（オーストラリア）】
都会でありながら海や山といった自然が生活のすぐ側に
大都市であり、観光ポイントや商業施設も多く、住んで
いても飽きることがない
特にお勧めは多文化を背景にした充実したグルメ

E組

【福岡市】

「こんなよかまち他にはないとよ！」
食はラーメン、明太子、いちご、祭りは博多祇園花房、
他にはホークスの本拠地、博多美人でも知られる
特に有名な観光スポットはないが、豊かな食文化や郷土色豊かな祭り、温かい人々が魅力



【高槻市】

「とかいなか」（都会と田舎の両方のいいところがある）
 大きな公園、豊かな農産物と良心的な物価、各方面への
 アクセス、自然と隣接していることにおいても恵まれた立地
 SDGs 未来都市として、子育て世代の応援、健康作り
 力をいれて少子高齢化社会に貢献



【大津市】

豊かな自然、琵琶湖でのマリンスポーツ、美しい山並みの
 散策等を求めて通年多くの人を訪れる
 大津京の歴史的史跡や文化が豊かに残る
 「ちはやふる」の舞台としても注目
 都会へのアクセスは良いが地域内は車社会

F組

【豊田市】

世界の TOYOTA が名前の由来
 車のまちとして工場をイメージするが、実はほぼ森林が占
 めている→未来都市として都市と森の共存を目指す
 「自然と車と未来の豊田市」



【京田辺市】

お茶の最高峰・玉露のまち京田辺
 歴史的な文化財、国宝有する一休寺は地域の誇り
 豊かな自然に対する住民の高い満足度
 歴史あり、自然良し、豊かな特産品などさまざまな魅力

【大阪市住吉区】

発表者はこの日お休みでした。
 スライドは全員で共有しました。
 また聞いてみたいことがあればぜひスライドの作成者本人
 に聞いてみましょう！



●発表の様子

前回の ABC 組の代表者の発表に続き、今日も多様な地域のまちの発表となりました。方言を楽しく交えて興味や親しみの湧くプレゼンを行うなど、それぞれが工夫を凝らし、紹介するまちに関心を持って欲しい、という意気込みが伝わってきました。「僕は京田辺を将来よりよい街にしていきたい！」と宣言してくれた生徒もいて、今回のスライド制作と発表を終え、伝えたい、好きになって欲しい、といった生徒たちの気持ちにとっても頼もしさを感じました。

2021年11月13日 SSS（高校1年生）－授業－

京田辺市の基礎知識 –市長の講演の前に

11月20日の次週の講座では、京田辺市長に來校いただき、京田辺市の現状や未来についてお話を伺います。それに先立ち、今日の講座では京田辺市についての基礎知識を全員で確認します。私たちの学校のある京田辺市ですが、遠方からの通学者も多く、そのまちについて実はあまりよく知らないという生徒が多いのではないのでしょうか。

●クイズを通して京田辺市に触れる

始めにスマートフォンでQRコードを読み取り、京田辺市に対するイメージ調査です。それぞれが率直にアンケートに答え、集計が導き出されました。予想されたことではありませんが、生徒たち若者世代にとっては、自然はとても多く感じているが、都会的であるとか刺激的な楽しさを感じる機会は少ないようです。



そして京田辺に関するクイズは全16問、市の名前、規模や予算、立地や特産品、名所や有する国宝、イベント、そして市長の出身大学や学んだ学部などにも触れて出題されました。反応から、正解する生徒が多く見受けられた一方で、全く知らなかったこともあり、時には驚きながら楽しく学びました。地元のキララ商店街(京田辺東商店街)で開催されている事務椅子レースの世界大会「いすー1G P」の出題では、出場したいと盛り上がりました。真剣に事務椅子で街を滑走して世界一を争う機会など他ではなさそうです！



こんなに身近なのに実は知らないなんてもったいない、知ることの楽しさを改めて気付かされました。クイズ形式で振り返った後は、京田辺市のまちのでき方について西田教諭の解説で学びました。時系列に航空写真を辿ると、京田辺市が同志社大学の誘致とともに大きく変わってきた軌跡をはっきり確認することもできました。そして現在では新しく松井山手エリアを中心に発展し続ける様子がわかります。映像やデータを交えて京田辺市を俯瞰して見ることができました。最後に、ワークシートに今日改めて知ったこと、学んだことを各自まとめました。

来週、いよいよ京田辺市の上村市長をお迎えし、市長のビジョンを語っていただきます。直接お話を伺い、質問にも答えていただけるまたとない貴重な機会です。楽しみに準備をしましょう。

2021年11月20日 SSS（高校1年生）－講演－

「京田辺ってどんなまち」 - 上村 崇 京田辺市長

今日はまちづくりの学びの一環として、上村京田辺市長に直接お話を伺うことのできる貴重な機会となりました。これまでに生徒たちは、まちづくりにはどのような視点があるのか、どのようなまちづくりが理想なのか、自分たちの周りのまちはどうなのか、様々な観点から、持続可能なまちづくりについて学び、考えてきました。私たちにとって、とても身近な京田辺市について、あまり知ることができていなかったことに改めて気づき、まず知ることから始めてきた生徒たち、今日の講演を楽しみに迎えました。

●生徒たちによる司会進行



京田辺在住の生徒たちが今日の司会進行を勤めました。上村市長は、政治家、市長であり、私たちの普段の生活とはかけ離れた存在、しかし同志社香里ご出身の内部生、同志社大学へ進学すれば先輩でもあり共通点もあります。遠いようなでも親しみも湧く、そのような上村市長をお迎えすることができました。

●市長の講演「京田辺ってどんなまち」

市長が同志社国際での講演のために用意してくださった資料は、今日のワークシートとともに生徒たちに配布しています。ここでは、講演のお話から印象的だった言葉をピックアップしてご紹介します。



「京田辺が皆さんの大切なまちになることを願って」

今日はせっかくこうして京田辺に縁のある皆さんを前にして、将来このまちが皆さんの大切なまちになることを願って話しをさせていただきたいと思います。

「政治家って？」

うさんくさい！？お金儲けしていいもの食べてる！？スキャンダルばかり！？市長からの質問に正直に手を挙げる生徒たち、マスコミの報道の影響からそういうイメージを持っていると思います。ただ、中にはまじめに取り組んでいる人がいる、今日はそのこともぜひ知ってもらえたらと思っています。市長としては、行政を滞りなく行う行政機関の長という役割、そして政治家として選挙などの活動を行う役割の2つを担っています。

「native 田辺」

私は生まれも育ちも京田辺の地元民です。「native 田辺」、これは大学生時代に友人たちから皮肉を込めてそう呼ばれました。そのくらい、京田辺に通学している学生たちにとっても京田辺は田舎で何もない、魅力のない場所だったのです。そう思われていることを心の中で悔しいと感じ、良いまちにしたいと思ったことが自分の活動の原点だったのかも知れません。

「47 都道府県全て制覇！」

なかなかこれを達成している人は少ない。私は全国制覇をし、また数々の海外にも行く機会を得て感じたことは、色々なまちがあり、色々な人がいる、そのことを皆さんにもぜひ知って欲しいと思います。海外では、スーパーに必ず立ち寄りコーラの値段をチェックしますが、そういったことでその国の物価などを感じ、考えたりすることも大事だと思っています。

「京田辺市とは発展のポテンシャルの高いまち」

交通の結節点であり、主要な都市部へのアクセスがよい恵まれた立地にあります。交通の要であるということは歴史上、発展のポテンシャルがとて高いとされます。今後は、高速道路のさらなる開通で、より便利になっていくと思います。皆さんは刺激のあるまちが良いと思う年代、でもどこかの都市と同じようになることがいいのか、独自の良さとは、そういった観点でまちづくりを考えて欲しいと思います。便利なまち、自然が豊かなまち、整備された住宅地、学術研究都市といったまちの利点、こういったことを踏まえてこれからの京田辺のあるべき姿を考えていきたいです。

「お互いに困った人がいれば声を掛け合えるまち」

住みたいまちを考えたとき、いつもここに立ち戻ります。何もしない、じっとしている、そんなまちにはしたくない。時代の流れとともに地域コミュニティの希薄化が進むなか、困った時は助け合うような、みんなが手を携えて問題を解決できるような温かいまちづくりがしたい。そのために行政も支援をしたいという思いが強いです。「協働」は将来を見据えたまちづくりの大きなキーワードです。

● 一問一答

生徒たちの質問にもめいっぱい答えさせていただきました！

まちを良くしていくために高校生ができることは？
まちを知ること、気になったこと知ろうとする、関わるきっかけ作りを

高校生のときにしておくべき勉強は？
選ばれるのではなく、自分で学部を選べ！（内部生）
歴史は先々に繋がること
語学やお金の流れも必ず役立つこと

市長になる動機は？
26歳で市議会議員になり、同級生たちのベビーブームもあり、いいまちにしたいという思いから、議員とは違う行政の長、政治家として活動の幅の広がる市長に興味を持った

方針を決定する上で最も大切にしていることは？
自分の信念は大事にしているが、市民の声は多くの場合正しい、もし信念に固執しすぎて物事が進まないのであればその際は歩み寄ることも考えている

市長の仕事の魅力や大変さは？
土日祝日でもお休みのない毎日は大変社会のために関わっているというやりがい
自分の思いを発信できる仕事

市政に関心をもってもらうために苦労していることは？
声が届かないところにも届ける努力
発信すること

理想のまちは？
困った人がいたら声を掛け合うことが
できる温かいまち

市民に期待していることは？
何よりみんなでまちを好きになって欲しい

印象に残っている国、まちは？
イタリア、フィレンツェ
スウェーデン
マレーシア、クアラルンプール

国内外のまちづくりに関する取り組みで注目しているのはどういったものか？
アメリカ、ポートランドの住民と市政が協働して築く
コンパクトなまちづくり

住むまちを選ぶ上でのアドバイスは？
京田辺を選んで！
相性の良い、肌に合うまちというのがきっとあるので、そういう感覚を磨いて欲しい

●講演が終わり

講演の最後には、「これから皆さんが京田辺で、知ったり、食べたり、歩いたり、もっともっとホームタウンとなっていけるよう頑張っていきたい」と力強く話してくださいました。今日は限られた時間のなかで、市長が高校生を相手にでも、真剣にお話をして下さり、時間をめいっぱい使って質問等にも全て答えてくださったことが大変印象深かったです。何より、市長の京田辺への愛が伝わり、また、行政という一見、高校生には遠い話も身近に、そして興味深く解説してくださいました。生徒たちも最後まで、市長のお話に聞き入り、上村市長を好きになり、応援したくなり、そしてその市長が行政をリードする京田辺に改めて関心を持ったはずです。内容がたくさん詰まった今日の講演のお話の中には、これまで授業で学んできた内容とつながることも多くあり、また新しく気付かされることもあり、大変貴重な良い学びの時間となりました。上村市長、大変お忙しいなか、今日はこのような機会を作ってください本当にありがとうございました。



最後に、司会を務めた生徒たちも加わり、取材に来られていた記者の方の写真撮影にも応じました。

2021年11月27日 SSS（高校1年生）－授業－

上村崇京田辺市長の講演の振り返り

先週は幸運にも上村崇京田辺市長にお話を伺う機会を持ちました。まちづくりを学んできた生徒たちにとっては、大変幸運なことでした。今日は、各クラスでその講演を振り返り、ワークシートに学んだことをまとめて記入します。そして大切なこととして、市長に今の気持ちと、感謝を伝えるためにお礼状を書きます。

●ワークシートの項目

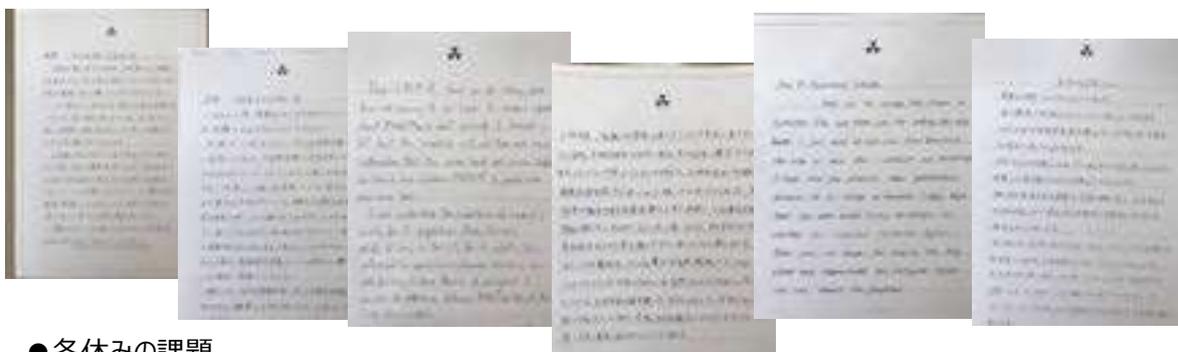
- ・上村市長について
- ・京田辺市について
- ・みんなからの質問とその回答について
- ・上村市長の講演や今日の振り返りを聞いて心に残ったことや考えたこと

先日の講演の録画を写し、周りの生徒たちと意見交換をし、一緒に振り返りながらまとめていました。



●礼状

講演と今日のクラスでの振り返りの内容を踏まえて、上村市長に感謝の気持ちを伝えます。どの生徒も真剣に思いを巡らせて便せんに向かっていました。



●冬休みの課題

今日が、本学期最後の講座となりました。冬休みの期間を利用して、2学期の講座での全てのワークシートを見返し、講座の内容を振り返り、改めて追記したり修正したりする箇所があれば取り組んで完成させてください。ワークシートは3学期に提出してもらい、教員も確認します。今学期の講座では、最後の京田辺市はもちろん、フィールドワークの候補地である近江八幡、徳島県神山町、淡路島など、実際のまちやそこでの取り組みについて多く触れました。機会を見つけて、気になった場所を訪ねてみるのもいいかも知れません。上村市長も、きっかけがあればまず知ることから、と話されていました。

課題にもしっかり取り組み、みなさん楽しい冬休みを過ごしてください！

2022年1月8日 SSS（高校1年生）－授業－

これまでの取り組みを振り返る

いよいよ3学期となり、SSS(Sustainable Society Study)講座でも最後のまとめに取り組みます。高校1年生では全員必修の講座ですが、高校2年生、3年生では、SSR(Sustainable Society Research)、SSD(Sustainable Society Design)として選択科目となり、同じく様々な科目の教員が担当し持続可能な社会の構築を実現するためのまちづくりをテーマとした学びを進めていきます。今日は、各クラスに分かれて、それぞれのクラスでグループになり、これまでのSSSでの学びを振り返って印象に残ったこと、学んだことを思い付くまま挙げてもらい、意見を出し合い、グループで発表してもらいました。

【キーワードをあげてもらおう】

- SDGs
- シビックプライド
- 上村京田辺市長講演
- 街についてのプレゼン
- 公共交通について
- issue map/issue design 講演
- 他



【グループ発表】

それぞれのグループが多く挙げたキーワードを振り返り、内容を思い出しながら、その中からさらに印象深かったこと、学びが深かったと思うことをまとめて、それぞれ発表しました。まちづくりについて、普段は考えもしなかった生徒たちの意識が少しずつ変わり、またまちづくりに関する専門的な用語や知識も身に付いたことがわかりました。



【ワークブックの提出】

1回の講座ごとのワークシートには、感じたこと、学んだことを書き込み、また課題を記入してきました。そのワークブックを提出しました。これまでの取り組みを振り返り、記入漏れや取り組めていない課題がないかを確認する機会になりました。

2022年1月22日 SSS（高校1年生）－授業－

シビックプライドを高めるために -まちの政策を立案し、提案する

1、2学期を通してSDGs、シビックプライド、様々なまちづくりの事例や様子とその違いについて学び、2学期には上村京田辺市長にも来ていただきお話を伺いました。今回は、これまでの取り組みで印象に残ったことを話し合い、まとめて発表してもらいましたが、京田辺市長のお話が印象に残ったという意見が多く、何気なく過ごしている京田辺について関心を持つようになった人が増えたことがわかりました。

今後は、クラスでグループに分かれて京田辺市に提案する政策について話し合い、最終的には「政策コンペ」を行おうと考えています。皆さんは私たち一人一人に憲法16条にもとづく請願権が保障されていて、地方自治体や国に対して、希望を述べるができることを知っていますか？今回の経験を通して、自身で住んでいる自治体に政策提言をしてみるのも意味のあることだといえます。

【クラスのSSS委員を決めよう】

各クラスで、政策案を仕上げていく際の、まとめ役を3名決めることにしました。決め方もクラスそれぞれ。A組は立候補ですぐに決定しました。

【政策の案を挙げる際のチェック項目のリストをつくろう】

希望や政策案はたくさん挙げられます。その中で、ある一定のチェック項目をつくり、それに当てはまっているかを検討することで、ある程度現実性や実効性のある案なのかどうかを絞ることができます。

まず、個人でチェック項目を考え、クラス委員で、10項目にまとめることになりました。ここにはA組で出た項目の案を紹介します。とても素晴らしく今後の政策立案も楽しみです。

●A組で挙げられたチェック項目（一部抜粋）

- ・今1番それが必要なのか
- ・一部の人だけに得していないか
- ・最大限お金を削減できているか
- ・市民は本当に望んでいるのか
- ・その政策は今後も必要か
- ・後世が困ることにはならないか
- ・投票をしたらしたら2/3ほどが賛成しているとしたら1/3の意見も少しはとり入れているか
- ・他にそのような政策をしているところで成功例はあるのか
- ・人間のこと以外も考えているか
- ・地球に優しいか(政策によるが)



【今日の課題】

京田辺市の特徴や課題について市長の講演を振り返ったり、ウェブサイトなどを見てまとめておきましょう

2022年1月29日、2月5、19、26日 SSS（高校1年生）－授業－

シビックプライドを高めるために -まちの政策を立案し、提案する

Online

各クラスで3つの案を絞る

新型コロナウイルス感染拡大の影響から、1月29日より3学期の講座は再びオンラインとなってしまいました。SSDでは、Google Classroomで生徒たちと録画や時にはオンタイムで繋ぎ講座を継続しています。生徒たちは、1年間の集大成として、京田辺市のシビックプライドを高めるための政策立案に取り組みます。1人1人が立案、提案を想定してクラス内で発表、各クラスのベスト3を決めるコンペを行います。

【立案に向けたアドバイス】

政策というと、まったく一から何か新しいものを考えないといけないと思っている人がいるかも知れませんが、他の自治体の取り組みを参考に、それを京田辺に合う形にアレンジすることもできます。参考に、皆さんが前回調べた政策や、教員の紹介した政策へのコメント、京田辺市の現状についてもシェアします。対面授業でのグループワークはできませんが、生徒の皆さんは多様な意見を持ちとても素晴らしいので、ぜひほかの生徒たちの意見やリサーチも参考にして、政策を考えてみてください。

【振り返り】

京田辺市の特徴や課題を市長のお話からも思い起こしてみましよう。そちらの内容も Google Classroom で共有します。

-京田辺市の良いところ-

豊かな自然に囲まれている
川や山に囲まれた自然豊かな街
市の20%を田畑が占めており、野菜や米
を中心とした農業が盛ん
玉露の生産地としても有名
大阪や京都、奈良にも簡単にアクセス
ベッドタウンとしての発展を遂げている
若い世代の住宅も増えた
大学のある街
関西文化学術研究都市 他

-京田辺市の課題-

地域のつながりが希薄化している
一時的な人口増にどう向き合うのか
少子高齢化の進行
高齢者のみの世帯が過去15年間で約
3倍に増加
要介護者の増加
求められる医療サービスの充実
子育て世代にも魅力的な街へ
シビックプライドの低下
振興地と過疎地の二極化 他

市制 20 周年のロゴでも「便利でええやん！京田辺」をキャッチフレーズとしていますが、今後の課題はやはりいかに『便利』だけではない地域づくりをするかだと市長もおっしゃっていました。今は通学先があるから、京田辺市に生まれたから、という理由で住んでいる人が多くても、その限られた時間が過ぎててもまだここに住み続けたいと思えるかが問われます。「他にはない、どのように京田辺市の特徴に個性的な一筆を足すかが大事です」という生徒からの意見もありました。

【政策評価の 10 項目のリストを作成する】

これまでのまちづくりで学んできた内容を振り返り、政策立案する場合にはどのような点をチェックする必要があるか、各自それぞれ考えてみましょう。

そして、全員が出した案の中から、各クラスの SSS 委員の話し合いにより 10 項目をピックアップしてもらいました。

結果をみると、これまでの学びを活かした、よく考えられたチェック項目が挙げられていると感じます。

A組で選ばれた 10 項目

- ・財源の確保
- ・SDGs を意識した政策か
- ・住民全員に利益があるか
- ・予算に見合った政策か
- ・市民の賛同を得ているか
- ・デメリットがないか
- ・まちの特徴を活かしているか
- ・将来性はあるか
- ・現実的かどうか

【教員が紹介する他の地域での政策】

- 花束を持って路面電車に乗ると運賃無料に!「とやま花トラムキャンペーン」(富山市)・・・帖佐香織教諭
- 「100%自転車移動できる街」2026 年までに自転車インフラを整備(パリ)・・・帖佐香織教諭
- CO-KYOTO ふるさとトピックス!「サケが戻るきれいな由良川を守る」(綾部市)・・・朴元惺怜教諭
- 20-minute neighborhoods「20 分生活圏」を実現するまちづくり(メルボルン)・・・福田なな子教諭
- Wikipedia に地元が載っている! 地元を知り愛着をもってもらう「ウィキペディアタウン」(静岡県下田市)・・・松野翔太教諭
- ヨーロッパで普及する「パークアンドライド」都心への車の流入を減らし二酸化炭素排出低減(京都市)・・・山田ショーン教諭
- 空き家プロジェクト「nanoda(なのだ)」シャッター商店街の賑わいを取り戻す(長野県塩尻市)・・・西田喜久夫教諭
- 「nanoda」に共感し空き家から新しい“いわくら”を創るプロジェクト「tebayo(てばよ)」(愛知県岩倉市)・・・西田喜久夫教諭

興味のある人は、他地域での取り組みも合わせてさらに調べてみましょう。

【課題】

- ・自分が提案したい政策を一言で表してください。(例、20 minutes neighborhoods、花トラムキャンペーンなど)
- ・その政策について内容を説明してください。

- ・その政策を行うことによって、どのような効果が望めますか。
- ・その政策は京田辺市民のシビックプライドを高めるものになっていると思いますか。
(既に政策評価の基準が決定したクラスは) 自分の提案した政策は基準を満たすものになっていますか。

【政策を評価する項目】

提出された政策を教員が以下の①から⑩の基準に沿って評価し、アドバイスします。

- ①資本・財源が確保できるか
- ②実現に時間がかかりすぎないか
- ③政策の目標やゴールが明確か
- ④環境や治安に影響がないか
- ⑤政策により悪影響を受ける地域や人がいないか
- ⑥まちの魅力を引き出せるか
- ⑦まちの人びとが望んでいるか
- ⑧まちのルールに反していないか
- ⑨もとのまちの個性や魅力を失わないか
- ⑩経済的に発展が望めるか

【各クラスより3つの政策案の選定】

最終的に修正した政策を共有します。そしてそれぞれに目を通し、各クラスで決めた10項目の政策評価の基準評価に照らして、各自「これだ！」と思う政策を選びましょう。

また選んだ理由を説明しましょう。どのような点が政策評価の項目にあっていると思ったのか説明しましょう。各クラスで投票によって決まった3つの政策について、提案を想定して動画にします。SSS委員が編集して、アップロードしてください。

【各クラス3つの代表政策立案の提案/発表】

2月26日(土)最後のSSS講座は各クラス、Google meetでのオンタイム授業です。それぞれが取り組み、またSSS委員によって話し合わせ、そして皆で共有し、ようやく各クラス3つの政策の提案がまとまりました。

- 発表をまとめた動画

<https://youtu.be/1HSNpBNW538>



● A組

『レトロシティ』 玉露とお寺/開放的な建物/古典やギャラリー/玉都やお菓子のオシャレなカフェ/定期イベント開催/S N S 発信
 『自然のまち京田辺』 豊かな自然/四季に合わせた花などでの景観づくりで癒しと経済効果を/住民も訪問者も/カフェ併設
 『京田辺宿泊で関西満喫』 利便性活かす/ショッピングモール、商業施設の充実/ペット預かり/若者の街（大学のまち）のアピール



● B組



『賞味期限ギリギリ商品祭り』 近くのスーパーやコンビニ商品一箇所にとまどめて販売/食品ロス解決/生産者、住民、販売者、地球ウィンウィン
 『学生に優しいバイトと家賃』 政府の援助や市の寄付でバイトの時給や家賃補助/学生が住みよいまち
 『Working pod』 リモートや集中して仕事をしたい人/それぞれのpod デザインを変え変化も/毎回新鮮な気分、自分のお気に入りを探す

● C組

政策を選んだ理由3つ（豊かな自然を有効活用・生活環境の向上、市民の健康守る・環境問題と暮らし）

→都市と自然の共存をコンセプトにしたまちづくり

『グリーンシティ政策』 市街地の植物を増やし自然環境の保護/よりよい住環境/環境先端都市としての知名度向上/自然を利用したアクティビティの実施（竹林キャンピング・ハイキングコース）

『ふるさと納税』 豊富な返礼品の活用促進/納税された資金の活用（こども園の整備運営、図書館に行きたくなるプロジェクト、まると京都の日事業、一休さんウォーク、わくわく体験教室、京田辺市絆ネットワーク、地球温暖化対策、イスワン、文化講演会）/子どもの経験/末端まで届く活動/地域交流

『ネイチャーカフェ』 自然を主要としたカフェ/魅力発信/メニューは地域の産物玉露など/幅広い年代/リラックス、地域住民観光客両方にも



● D組



『みんなに優しい京田辺』 貸出自転車/WiFiの設置/最新の案内板（外国語・点字対応）
 『いつでも WiFi』一定の金額でどこでも WiFi/今の時代みんなに必要/観光客の増加/地域のことを知ってもらう
 『京田辺の自然をパシャリ！』 インスタ利用/コンテスト/商品

特産物/面白そうという企画/世界中に発信可能

● E組

『田畑バイト』 貴重な経験/地元の人との交流/高齢者を若者が助ける仕組み/シビックプライド

『京田辺市の自然と触れ合おう』 晴れた日のピクニック/住民同士の結束/自然を身近に/シビックプライド

『空き家託児所』 空き家で高齢者が子どもの面倒/放置空き屋・高齢者増加・就業の問題解決/シビックプライド

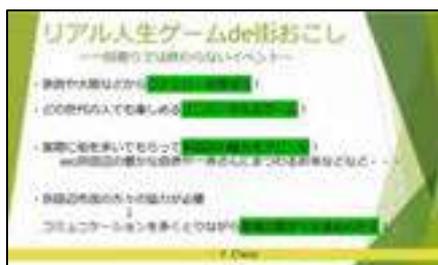


● F組

『リアル人生ゲーム de 街おこし』 継続的なイベント/魅力の発信/幅広い世代/市民の協力/地域の繋がり

『レンタルサイクリング』 京田辺の自然/健康促進/環境に優しい

『旬の商材フェア in 京田辺』 旬の野菜を市民に低価格で提供/定期開催/若者と農家交流/京田辺の魅力の再発見



どの政策も個性的で、魅力があり、皆が評価基準に従って真剣に取り組んだことも伝わってきました。教員も含めて提出された動画を楽しみ視聴し、ワクワクと感じさせられる提案がいくつもありました。

【最後の課題】

- ・各クラスの政策の提案を視聴した感想・意見をまとめましょう。
- ・SSS 講座で学んだことをまとめましょう。

【1年間の SSS 講座を終えて】

まちづくりというテーマを通して、自分たちのまちの特徴や将来住みたい環境などといった視点から SDGs を捉え、何か取り組むきっかけになったことを願っています。講座の一番始めに、住んでみたい街について尋ねたとき、現在では、まちについての気付きや考え方に何か変化はあったでしょうか。まちづくり、SDGs、プレゼンのやり方、講演でのお話等々、この講座で自分なりに得たものはどんなことだったでしょうか。これからも様々な場で、継続してこういった社会課題について一緒に考え話し合う機会を持ちたいと思います。

●生徒の感想

- ・いろいろなまちのまちづくりを学べた（それぞれに工夫があった）、まちの見方が変わった
- ・まちづくりを考えたこともなかったが、こういう機会があり、住んでいるまちについてもっと知り考えたいと思った
- ・中国ではまちの政策に学生が関わることは考えもしなかったが、学生も実際に考え、提案できるということがとても新鮮だった
- ・自分たちの街と言ってもいい京田辺の知らないことをたくさん学べたことはとても良かった
- ・SDGs の広い世界の課題が、自分たちのまちづくりという身近なところからも解決につながることを知った。